

修学旅行のまとめ

61020H

一日新館見学—

実際に白虎隊が授業を受けていた教室を見学しました。復元された日新館は忠実に再現されていました。

会津藩の男の子は10歳になると日新館という藩の学校に入学する決まりになっていました。日新館に入学すると、まずは素読所に入ります。素読所とは、本の読み書きなどを学ぶところです。ここで6～7年程勉強し、その後試験を受けます。



人数は先生もふくめ7人程度。たたみの上で正座をし授業を受けます。

そこで、気になる教室が一つありました。休み時間を再現した教室です。腕相撲をして楽しそうに遊んでいる生徒が目立っていました。日新館は厳しく指導するところだけでなく、和やかな所もあることが分かりました。

その後に、私たちも実際に教室に入って緊張感を味わってみました。そこでは、仕の掟を読みました。

- 仕の掟
- 一、年長者のいふことに背いてはなりません
 - 一、年長者には御辞儀をしなければなりません
 - 一、嘘言を言ふことはなりません
 - 一、卑怯な振舞をしてはなりません
 - 一、弱い者をいぢめてはなりません
 - 一、戸外で物を食べてはなりません
 - 一、戸外で婦人と言葉を交へてはなりません
- ならぬことはならぬものです

正座をして、一つ一つに「はい！」と返事をし、畳に手をつき御辞儀をする。「ならぬことはならぬものです」を最後に繰り返して言い、御辞儀をしたら終了。このようなことを白虎隊は日々行っていました。

他にも、よろいかぶとを身につけたまま泳ぐ練習（水練）、天文台で天球儀などを置いて天体観察（天文）、書学や医学、弓術、砲術、刀術などを学んでいました。ここまでで分かる通り、白虎隊は毎日、努力を怠らず続けていました。

まとめ

少年たちは最終的に、飯盛山で自刃する運命になってしまいましたが、白虎隊の努力は誰でも尊敬するものです。

また、同じく会津の歴史、野口英世の生涯についても学び、私は心動かされました。

白虎隊と野口英世に共通しているのは、「努力」ということです。誰でも努力をすればきっと報われる、と思いました。みんなにもこのことを学んでほしいという理由でも、会津の歴史は、いつまでも語り続けていってほしいと思います。